



地域から地球へ、環境保全の推進

私たちは環境負荷を最小限に抑える最新の技術を導入し、地域の生態系を守る仕組みをつくり、省エネや廃棄物管理の徹底をすることで、自然と調和したまちづくりを推進します。



イオンモール常滑

環境トピック2016

◆ GRESB調査において「グリーンスター」評価を取得

欧州の年金基金グループを中心に創設したグローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク(GRESB)は、不動産会社・運用機関のサステナビリティ配慮を測る国際的なベンチマークです。当社は2015年にアジア地域で16位(92社中)、世界全体で126位(688社中)となり、環境方針の策定・開示および実行・計測双方において優れた取り組みを行っている企業として、最高位となる「グリーンスター」評価を取得しました。



◆ 「おおさかストップ温暖化賞」優秀賞を受賞

「おおさかストップ温暖化賞」は、大阪府環境農林水産部が主催し、地球温暖化防止対策およびヒートアイランド現象の緩和対策ならびに電気の需要の平準



化対策の普及促進を目的に、すぐれた取り組みを実施した事業者などを表彰するものです。府下の当社直営5モールにおいてLED照明の導入などにより温室効果ガス排出を12.7%削減し、「温暖化対策部門」優秀賞を受賞しました。

◆ 国内初「下水再生水高度複合利用システム」の運用をスタート

2016年3月、堺市・関西電力グループ・当社は、イオンモール堺鉄砲町(大阪府)で下水再生水およびその際に発せられる熱エネルギーを複合活用する日本初の取り組みを開始しました。下水再生水を施設内の給湯や空調の熱源として活用するとともに、熱源として利用した下水再生水を施設内外の「せせらぎ水路」やトイレ洗浄水の水源として活用しています。



◆ 全モールの一斉ライトダウンを実施

当社は環境省が提唱する「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に2003年より参加しています。

2015年6月22日および7月7日の2回にわたって、全国140のモールで一斉に20時から店舗屋外や周辺の照明を消灯しました。1回のライトダウンで削減できる電力は約387,000kWh(一般家庭約27,400世帯*が1日で使用する電力量相当)に達します。

※一世帯あたり14.12kWhで換算



◆ 新店3モールが「いきもの共生事業所®」認証を取得

2015年10月以降にオープンしたイオンモール四條畷、イオンモール常滑、イオンモール堺鉄砲町の3モールは、いずれも「いきもの共生事業所®」認証を取得しました。この認証は、「一般社団法人 企業と生物多様性イニシアチブ

(JBIB)」が作成・登録した「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」に基づき、生物多様性に配慮した緑地づくりなどの取り組みを「いきもの共生事業推進協議会」が第三者的に評価・認証するものです。イオンモール東員(2013年)、イオンモール多摩平の森(2014年)に続き、合計5モールが認証を取得しています。



イオンモール常滑の敷地に広がる森「きゅりお」では、25の巣箱を設置して知多半島に生息する野鳥を呼び込んでいます。

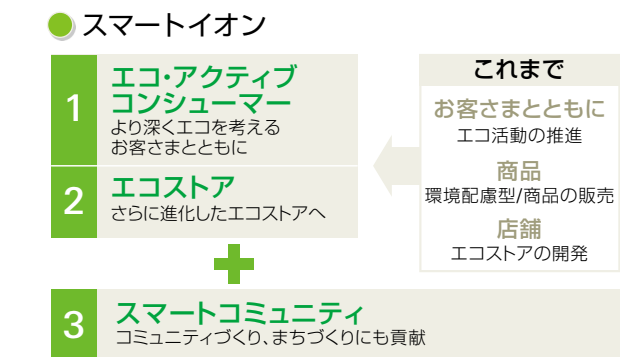
◆ EV(電気自動車)充電器の設置拡大

2008年にイオンレイクタウンに設置して以来、当社は地球環境の保全、持続可能な社会の実現をめざし、CO₂を排出しない電気自動車やプラグインハイブリッド車の普及を推進するため、各モールにEV(電気自動車)充電器の設置を進めてきました。イオングループの他の商業施設と合わせて2016年4月1日現在で193拠点のEV充電ステーション網を構築するとともに、社会インフラとして安定的なサービスを提供するため、電子マネー「WAON」などを利用した有料化への仕組みづくりを進めています。



◆ スマートイオンの展開

スマートイオンとはエネルギーの効率化や防災などにまちぐるみで対応する次世代型エコストアを指し、環境目標「イオンのエコプロジェクト」が定める基準を満たす持続可能なまちづくりです。当社が運営するモールでは、2016年3月オープン



◆ 公共交通機関の利用促進

イオンモールでは、電車や路線バスなど公共交通機関でご来店いただける環境を整えています。特に駅から徒歩圏内のモールでは、鉄道会社や交通局と連携して電車でご来店されたお客さまに特典を提供するなど、公共交通機関を利用しやすい環境づくりを進めています。

◆ 自然の力を利用した取り組み

● 太陽光発電

イオンモールでは他の商業施設に先駆けて太陽光発電システムを順次導入し、館内の使用電力の一部をまかなっています。一部のモールでは、災害などによる停電時にも太陽光パネルで発電した電力を活用できるシステムを採用しています。



● 風力の活用

一部のモールには、風力発電と太陽光発電によるクリーンエネルギーのハイブリッド太陽灯を設置しています。夜間や日照時間の短い冬季でも安定した充電を確保し、災害時でも自然エネルギーのみで終夜点灯が可能です。



● 壁面緑化/植栽

モール壁面の緑化は景観を向上するだけでなく、建物の断熱性を高めることで夏季の館内における温度上昇を抑制し、冷房で使用するエネルギーの削減につながります。また、各モールの周辺には随所に緑豊かな植栽を施し、自然との調和を図るとともに、うるおいのある憩いの空間を演出しています。



◆ イオン ふるさとの森づくり

1991年にマレーシアでスタートした「イオン ふるさとの森づくり」。新しいモールがオープンする際には、地域の自然環境に最も適した、その土地に自生する樹木をお客さまとともに植えています。2016年2月末現在、累計植樹本数は約1,120万本(グループ合計)に達しています。



地域から地球へ、環境保全の推進

◆ 水質保全

排水基準を順守するためにすべての飲食店で毎日の厨房グリストラップ清掃を義務づけ、油やごみの流出防止に努めています。そのうえで、店内の厨房から油が流出する事故が発生した場合に外部への拡散を防止するための訓練を定期的実施しています。また、一部のモールでは排水を浄化するためにバクテリア分解を利用しています。培養液によりバクテリアを増殖させ、そのバクテリアが体内にリンや窒素を取り込むことによって、油分などを分解して水質を浄化します。



グリストラップ清掃



流出を防止する専用の油吸収剤を常備

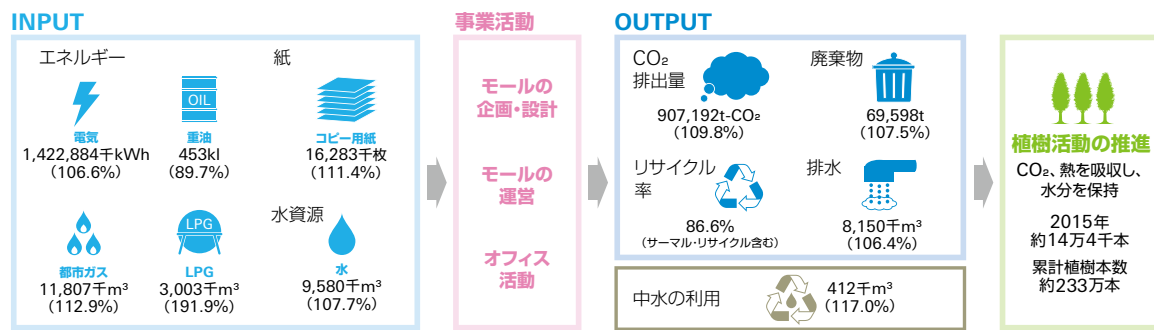


ごみ庫に設けられた防油堤

◆ 節電対応

各モールでは四半期ごとに電力使用量の目標値を定めており、お客さまの安全や快適さに影響を及ぼさない範囲で日常的な節電に努めています。具体的には、社内の照度基準を確保したうえでの照明の間引き、お客さまの少ない時間帯における駐車場の一部エリア閉鎖や一部エレベーターの運転停止、エスカレーターの人感センサー導入、きめ細かい館内の空調管理などが挙げられます。

● 2015年度インプット/アウトプット (国内70モール)



※対象は共有部分、イオン、テナントも含むモール全体。ただし廃棄物およびリサイクル率はテナントとイオンモール事務所が対象、コピー用紙はイオンモール事務所のみが対象となります。 ※（ ）内は対前年比

◆ 省エネルギーの取り組み

● LED照明

各モールの館内照明については、従来の蛍光灯や白熱電球から、より省電力かつ長寿命なLEDへの切り替えを進めています。近年にオープンしたモールでは共用部のLED採用率100%を達成。専門店にも新規モールオープン時や既存店リニューアル時にLEDの採用を呼びかけており、光の色や明るさが選べるようになってきたこともあって着実に切り替えが進んでいます。また、屋外の電飾サインにも消費電力の少ないLED光源ユニットを採用しています。



● 氷蓄熱システム

氷蓄熱システムは、最も電力消費の激しい夏季の昼間に使用する電力を抑制し、1日を通した消費電力を平準化します。電力負荷の少ない夜間の電気を利用して蓄熱槽に氷を蓄え、その熱エネルギーを営業時間の冷房に活用しています。



● 空調冷水カスケードシステム

当社が開発した「空調冷水カスケードシステム」は、複数の空調機をカスケード(連なった)配置とし、夏季の冷水搬送動力の低減ときめ細かな空調負荷対応を実現しました。冬季は館内の人体発熱や照明発熱を冷水で熱吸収させ、外気を温めて送風に利用。一般的なシステムと比較して約50%のエネルギー削減を可能にし、CO₂排出量削減に貢献します。

◆ 廃棄物削減とリサイクル

モールから出る廃棄物の削減では、専門店で協力をいただいて、「何を、どこで、どれだけ廃棄しているか」を明らかにし、課題として意識づけることが重要です。各モールでは、廃棄物を基本17品目分別したうえで品目ごとに計量するシステムを導入しています。

専門店は各品目を計量した後、計量済みのシールを貼り、品目ごとの保管場所にまとめて廃棄します。分別されたごみのうち、可能なものについては極力リサイクルに回し、各品目ごとにリサイクル率を集計しています。2015年度のリサイクル率は86.6%でした。



分類を分かりやすく記したごみ庫。空調を備えて悪臭や害虫の発生を抑えています。



廃棄物は品目別に集計して計量。どの専門店がどれだけの廃棄物を出しているかをデータで把握しています。

◆ 環境コミュニケーション

各モールの環境負荷低減は当社の従業員だけで進められるのではなく、専門店やお客さまのご理解・ご協力が必要です。専門店のスタッフには小冊子の配布やバックヤードの掲示物などご協力をお願いしています。また館内ではエコインフォメーションやエコベンチを通して各モールの環境に対する取り組みをご紹介しますとともに、エコバッグの持参やリサイクルへのご協力を呼びかけています。



エコインフォメーションでは太陽光発電システムの稼働状況などをご確認いただけます。



館内のごみ箱も4品目程度に分類。お客さまにも分別へのご協力をお願いしています。

● 2015年度の廃棄物排出総量とリサイクル率

		廃棄物排出総量	リサイクル率
1	生ごみ	15,234t	91.0%
2	段ボール	19,250t	100.0%
3	雑芥	19,758t	64.0%
4	廃プラスチック	3,035t	98.6%
5	ビン	422t	99.5%
6	缶	654t	100.0%
7	発泡スチロール	111t	100.0%
8	廃油	1,704t	100.0%
9	紙類	2,788t	100.0%
10	粗大ごみ	141t	80.8%
11	その他不燃ごみ	1,404t	79.5%
12	廃蛍光灯	30t	82.7%
13	廃電池	9t	79.1%
14	割り箸	115t	95.9%
15	廃アルカリ・剥離剤	35t	63.6%
16	汚泥	4,328t	89.4%
17	廃エンジンオイル	—	—
18	店頭回収:アルミ缶	79t	100.0%
19	店舗回収:食品トレイ	24t	100.0%
20	店舗回収:牛乳パック	110t	100.0%
21	店舗回収:ペットボトル	366t	100.0%
全社リサイクル率(サマール・リサイクル含む)			86.6%

◆ 資源回収・リサイクルの促進

一部のモールでは、ご家庭の古新聞や古雑誌をお持ちいただいたお客さまに重量に応じたリサイクルポイントを発行し、一定のポイントがたまるとうイオン商品券と交換するシステムを導入し、古紙のリサイクルを促進しています。回収はモールに設置した専用のボックスで行うため、お買い物のついでにいつでもお持ちいただける点でもご好評をいただいています。また、お客さまのご家庭からペットボトルを回収し、WAONポイントを付与する取り組みも一部のモールで実施しています。



ecomio(エコモ)による古紙リサイクルポイントシステム(協力:国際紙パルプ商事株式会社)



ご協力いただいたお客さまにはWAONポイントがたまる、ペットボトルの自動回収機